

論文概要

開発途上国に一村一品運動を伝える際の留意点 ～エルサルバドル共和国サンロレンソ市の事例から～

18MD0131 神前 良子

1. 研究の目的と方法

本論文の目的は、(1) 日本及びエルサルバドル共和国（以下、エルサルバドル）の一村一品運動において、農協や地域住民を取り巻く前提条件がどう異なるのか、また、(2) エルサルバドルでは、どのように一村一品運動が伝わったのかを明らかにすることである。

平松大分県知事が1979年に提唱した一村一品運動は、地域の主体的な行動によって、地域の特性を生かした産品を発掘し、地域の「むらづくり」の意欲と情熱をわきたたせ、活力に満ちた地域づくりを目指す運動であった。一村一品運動に刺激された様々な地域おこし運動が日本各地に広がり、また、現在では、アジアやアフリカ等多くの国々から地域振興に重要な示唆を与える「モデル」として注目されている。エルサルバドルにおいても、独立行政法人国際協力機構の協力により個別専門家、シニアボランティア及び青年海外協力隊が派遣され、経済活動の促進を通じた地域開発に資する戦略として一村一品運動事業を展開している。

しかし、海外の一村一品運動の枠組みの中では、地域社会や参加する地域住民達に波及的かつ持続的な成果をもたらしていないケースも多い。

筆者の配属先であったエルサルバドル西部に位置するアウアチャパン県サンロレンソ市では、一村一品運動の中心的存在であった農業協同組合（以下、農協）が農作物を継続的に売ることができない状況であること、集荷場を建設したが継続して使用されていない、また、援助を受けた農協の組合員が援助を受けられなかった人達に妬みを受けるケースも見受けられた。

なぜ、日本では一村一品運動が成功したのに、エルサルバドルでは上記のような状態が起こってしまうのか。開発途上国に伝えられる事例のほとんどは、大分県の一村一品運動に先立つ地道な取り組みが前提であるとともに、様々な要素や歴史プロセスがあり、偶然といったものから生成されたものであり、それらを捨象して、一部分や個別の取り組みを成功事例としてモデル化しても、それで「成功事例」の総体を理解したことにはならない。また、日本での地域産品を活用した地域開発の成功事例には、共通したいくつかの前提があり、こうした前提条件はあまり意識されることなく成り立っているが、海外で地域振興を行う場合、これらの日本の前提条件がない可能性がある。

本論文では、以下の5つの日本の前提条件に焦点を当て、サンロレンソ市の事例調査より

日本とエルサルバドルの農村を取り巻く社会の状況やそれをベースにした組織がどのような役割を担っているか等を比較し、日本とエルサルバドルの条件の差異を検証する。

1. 日本の農協-地域アイデンティティとの結びつき-
2. 日本の農協-販売ルートの提供-
3. 日本の行政-支援の機会均等-
4. 日本の社会-地域アイデンティティと機会独占の意思の存在-
5. 日本の社会-住民のキャパシティ・ビルディング -

2. 論文の構成

第1章 研究の概要

第1節 研究の背景と問題意識

第2節 研究の目的

第3節 論文の構成

第2章 日本の一村一品運動の展開と開発途上国への影響

第1節 一村一品運動とは何か

第2節 一村一品運動における農協

第3節 一村一品運動における生活改善実行グループ

第4節 日本の地域社会の前提条件

第5節 開発途上国への影響

第3章 エルサルバドルにおける一村一品運動

第1節 導入の背景

第2節 エルサルバドルにおける一村一品運動政府推進機関の認識

第3節 サンロレンソ市への一村一品運動の導入

第4章 サンロレンソ市における事例調査

第1節 組合を対象とした調査

第2節 農家への調査

第5章 事例調査結果による考察

第1節 日本とサンロレンソ市の前提条件の比較考察

第2節 サンロレンソ市の一村一品運動に対する認識の考察

第6章 結論

【図表一覧】

【参考文献】

謝辞

3. 論文の概要

本論文は、全6章で構成されている。第1章では、前述のとおり研究の背景と問題意識、研究の目的、方法を明らかにし、論文全体の構成を示している。

第2章では、文献調査を基に日本における一村一品運動の展開を示している。日本の一村一品運動は、地域を基調とした運動で、また地域アイデンティティを強める試みであった。そして、この運動では、農協や生活改善実行グループが地域の中核的な役割を担い、地域振興に寄与したことがうかがえた。続いて、日本の地域振興における前提条件及び開発途上国へ一村一品運動が伝えられる際の問題点について先行研究を基に示している。日本では、地域振興において上記の5点の前提条件があるが、開発途上国では、その前提条件がない可能性があることが示唆された。

第3章では、本論文の事例研究の対象国であるエルサルバドルにおける一村一品運動の導入及び事例研究の対象市であるサンロレンソ市での一村一品運動の展開を文献及びサンロレンソ市の地域住民等からの聞き取りを基に示している。エルサルバドルでは、政府推進機関の認識の段階では、特産品開発を手段に地域アイデンティティを強める“むらづくり”の運動という側面を意識していることがうかがえた。しかし、第2章で示した日本の前提条件及び筆者がサンロレンソ市で経験した地域住民間の対立を考えると、エルサルバドルにおいても地域アイデンティティが存在しないことが推察された。また、サンロレンソ市では、一村一品運動を機に組織された組合の活動が設立から数年で止まってしまい、一村一品運動から遠ざかることとなったことを示した。

第4章では、サンロレンソ市の事例調査について述べている。事例調査では、サンロレンソ市の組合及び農家に対し、書面及びインタビューによる調査を実施した。この第4章では、その調査結果を組合及び農家への調査毎に整理して示している。

第5章では、第4章で示した調査結果を基に日本の前提条件との比較、そしてサンロレンソ市における一村一品運動に対する認識の2つを考察している。農協の地域アイデンティティとの結びつきの視点では、サンロレンソ市の組合の「組織形成プロセス」、「加入条件」、「メンバーの増減」等の状況から、農協の販売ルートの提供の視点では、現在の組合員の農作物の販売状況等から考察を行った。行政支援の機会均等については、同市の一村一品運動の導入の経緯や組合が抱えている市役所との問題から考察を行った。また、社会の地域アイデンティティと機会独占の意識の存在の視点では、同市の農家の所属するコミュニティの意識や共に働くことができる単位への考え方から、そして、地域住民のキャパシティ・ビルディングの視点では、同市における加工品の製造状況、加工品の製造や販売における問題点等から考察を行った。さらに、同市における一村一品運動の認識では、一村一品運動への理解や同運動への参加の動機等から考察を行った。

第6章では、本論文の結論及び提言を示している。本論文で筆者が得た結論は、エルサルバドルでは、商品開発や起業ということに注目が置かれ、地域住民が個別に活動し、“むら

づくり”の要素が弱く、また、日本とエルサルバドルの農村では以下のとおり条件が異なるということである。

1. 日本の農協は、その組織形成プロセスや役割が地域と密着しており、地域アイデンティティを持っているのに対し、エルサルバドルの組合は設立時にいたメンバーの親族関係のつながりが強く、地域とは結び付かない仲間うちの組織である。

2. 日本の農協は、組合員に対し平等に市場の情報や生産・加工技術を教え、商品販売の機会を提供できるエージェントの機能を持ち、一村一品運動を推進できたが、一村一品運動で組織されたエルサルバドルの組合は、一部の生産者の集まりなだけで、生産者に機会均等に販売ルートを提供できるエージェントの機能をもっていない。

3. 日本の行政は、住民に対し機会均等であるが、エルサルバドルの農村では、市の政権交代後に農家が入手できる情報が減り、一村一品運動の活動に参加できない事例が見られたことから、政治的分断があり、支援の機会均等が徹底できていない。

4. 日本の社会では、歴史的に地域アイデンティティを共有しており、地域振興の言動力となったが、エルサルバドルの農村では、同国の一村一品運動が地域の単位とする「市」では地域アイデンティティが希薄であり、農家が一緒にビジネスを行う単位は、家族や組合員という限られたグループである。

5. 日本の社会は、一村一品運動を始める前からキャパシティ・ビルディングを目的とした運動が実施されており、その結果一村一品運動を推進できる地域住民がいたが、エルサルバドルの農村では、キャパシティ・ビルディングを目的とした研修が選ばれた人を対象とした短期的プロジェクトで終了しており、現在の地域住民の能力だけでは限界がある。

エルサルバドルの事例では、これらの両国の差異を考慮せずに、一村一品運動を導入し、結果的に運動の波及や継続にはつながらなかったことが明らかになった。波及的かつ継続的な運動を目指すのであるならば、大分県の成功事例や特産品開発の具体的な手法だけでなく、日本と導入国の農協の性格、地域に対する意識や行政の支援等の条件の違いを考慮しながら導入する必要があるのではないか。伝える側は、時間を要してもそれらが成功事例と呼ばれるに至るまでの様々な取り組み、その歴史的背景を含めたプロセスも併せて伝えることの重要性を認識すべきである。さらに、伝える側と伝えられる側が共に両国の条件比較を行い、その条件の差異を補足するような取り組みがなされる必要があることを本論文の提言として指摘している。